

大分県地方史総目録

創刊号—第四九号

創刊号（第一第二号合輯）

発刊を祝う

清原貞雄 一

研究

西船東馬——日本史における地域性

富来隆 三

姫島黒纒石の分布について

竹長賢治 一二

豊後国下城彌生式遺跡に於ける鉄器遺物の編年に関する一考察

賀川光夫 二〇

宇佐宮荘園の成立過程

河野泰彦 三一

司祭者の分裂

中野幡能 四〇

源範頼と鶴見郷古殿

後藤武夫 四五

二豊の荘園について（一）——豊後国田帳を中心として

渡辺澄夫 四九

大友宗麟の墳墓に関する研究

増村隆也 六四

三浦梅園と府内の詞友門弟

久多羅木儀一郎 七一

岡藩に於ける心学の概要——広徳舎の沿革

北村清士 七九

大分郡庄内の生んだ志士後藤順平小伝

立川輝信 八二

資料紹介

下毛郡耶馬溪村下郷雲八幡宮川太郎（カッパ）祭の祭文

山本入山 三〇

虚空蔵寺址発見埵仏

宇佐山郷金石文年表

賀川光夫 九二

谷村の大將軍祭

大隈米陽 九三

資料二題

半田康夫 九六

郷土史話

土生よねさく 九七

大野直入両郡良兵を出す

豊後の練貫酒

渡辺澄夫 七〇

歴史上の流行

渡辺澄夫 七八

歴史教育

八一

大分県小学校「社会科教育課程」を読んで

第三号

富来 隆 九九

論説

長野馬貞「追悼眺塚集」

豊後日田中城河岸と竹田河岸

松本義一 一一

近世豊後に於ける山村家族と村落構造——玖珠郡四日市村の場合——

勝目忍 九

細川侯参勤交代出船之図

佐藤節 一五

報告

豊後大分郡津守村の五人組手形

田北学 二七

若宮八幡社の御田植神事……………入江英親 三五

豊後国因田驛の柴山村と毛井村……………伊藤東 三九

歴史教育

歴史教育における経験の問題——地方史との関連性……………藤原正教 四一

教材研究 村の生活 (その一)……………富来隆 四七

郷土史話

竹田許つて唐墨を得……………立川輝信 三四

画家の秋聲、別府で美人の尻を追ふ……………立川輝信 五〇

大友六代貞宗の経典開版……………立川輝信 五二

史料紹介

「腰巻と根巻」……………富来隆 二六

第四号

論説

大分県下の条里遺構……………兼子俊一 一

吉野朝時代に於ける豊後国の動静に就て(其の一)……………増村隆也 八

江戸時代に於ける別府の交通——主として海岸部の陸上交通路……………安部巖 一二

豊府聞書と豊府紀聞……………久多羅木儀一郎 二四

冠婚葬祭の特殊性と社会関係——大野川河口のクリシタン部落……………富来満 二八

報告

島津勝久豊後に走り沖浜に死す

六八

海部郡旧堅田郷を中心とする庶民史料目録

市瀬家隆

三二二

佐伯神楽（一名堅田神楽）覚書

正田泉

三六

日田郷土行事の奇習

正田泉

四二二

別府市湯山の史蹟——湯の孔塚取場

武石繁次

四六

郷土史話

後藤武夫

四九

鉄のお土産

渡辺澄夫

四八

岡城と知覧勢

黒田勇

五三

社会科のための郷土史講座

賀川光夫

五七

上古の大分県

富来隆

六八

郷土史料

大分県下における「鬼」の字のつく古墳

第五号

論説

大友後期の対明交通

宇佐宮とその別符の成立

久多羅木儀一郎

一

熊野石仏（大日尊）の人類学的一考察

中野幡能

八

大友義統の古文書

酒井富蔵

二〇

南大分羽屋の百手祭

三木俊秋

二七

半田康夫

半田康夫

四四

資料紹介

頼朝下文など新史料発見——県史料刊行会の庄内郷史料調査——

竹内理三 五二

松平忠直の豊後配流途上の書状

渡辺澄夫 五三

咸宜園門人数別調

立川輝信 五五

伝説の川太郎とかっぱがく(その二)

山本入山 五六

社会科学のための郷土史講座

中野幡能 五九

上代の大分県

郷土史話

河野清実さんの事ども

清原貞雄 七三

歴史教育

教材研究村の生活(二) 豊後国丹生荘について(一)

富来隆 七六

第六号

論説

歴史学の用

清原貞雄 一

宇佐放生会の傀儡子

半田康夫 七

大友宗麟の墳墓に関する研究—統報—

増村隆也 一四

維新志士 加藤龍吉小伝

土居寛申 二五

豊後机長原の開拓

工藤繁則 三三

資料紹介

婚禮の風習について——坂ノ市町久土部落——

佐伯文庫の行方

「外財根元記」に就いて

法華院山伏弘藏坊の系譜

直入郡直入町神の原出土の石戈について

社会科のための郷土史講座

上代の大分県(二)

社会科教室

社会意識の形成——いろはカルタと教育勅語——

第七・八号合輯

研究

旧石垣村の交通路に関する一考察(中近世の交通路探索の一方法)

富貴寺の種子石、梅遊寺の墨書十三仏板碑

近世の「賀来の市」における店について

資料紹介

天正年間の豊後国の間別帳

竈門八幡の写経

臼杵流行のちよんかれ

「大分県資料」編纂余聞——志賀道輝について——

富来 満 四二

増村 隆也 四四

安藤 隆 五三

松岡 実 五九

佐藤 満洋 六二

富来 隆 六三

富来 隆 六三

富来 隆 六七

永井 幹生 一

酒井 富蔵 一三

津野 義和 二二

渡辺 澄夫 三二

伊東 東 三五

今泉 弥佐助 三七

三木 俊秋 三八

本地屋文書 半田康夫 四一

「耶蘇童子歌」(玖珠郡九重町中野温泉富田家所蔵) 半田康夫 四五

耶教徒遺蹟朝霧社 土居寛申 四七

郷土史話 清原貞雄 五四

中野泰行翁の思い出 後藤武夫 五六

別府の地獄の鬼由来、その他 粟林定 六一

社会科学教育 粟林定 六一

郷土史料の教育的利用について——歴史教育の一試案—— 粟林定 六一

第九号

論説

地頭の系譜——豊後国田染庄曾禰崎氏について 中野幡能 一

豊後の石仏と地形地質 酒井富蔵 五

庚申信仰の歴史——豊後国大野郡地方を中心とした 芦刈政治 八

報告 三木俊秋 一四

南海部郡平井文書の役割 山本聰治 一五

青の洞門 立川輝信 一九

享保十一年南海部郡因尾村の走り百姓と逃散に就て 立川輝信 一九

海部郡旧堅田郷を中心とする庶民史料目録(その二)

正田 泉 一三三

社会科学教育

地理的・歴史的内容の学習形態

安部 巖 二六

資料

大分県修験資料(一) 金山文書

松岡 実 三〇

時評

町村合併と町村名

渡辺澄夫 三五

随想

恩師の思出

清原貞雄 三六

動向

県下地方史研究の動向

立川輝信 三九

第一〇号(一〇号記念特輯)

論説

戦国時代の豊後府内港

岡本良知 一

雪舟と大分県

立川輝信 二九

賀来善神王について

二宮好雄 六五

随想

一〇号発刊に当って

渡辺澄夫 七一

郷土史話

豊府聞書最古本？

立川輝信 二八

第一一・一二号（別府特輯）

巻頭言

別府の史的研究に就いて

清原貞雄

論説

温泉都市、別府の自然的基礎

兼子俊一 三

原始・古代の別府

賀川光夫 一〇

別府市の神社

中野幡能 一三

莊園時代の別府―二豊莊園の研究（二）―

渡辺澄夫 二三

江戸時代の別府

久多羅木儀一郎 四二

別府の遺物、埋没三百年の像

安部 巖 六四

別府地域の温泉史

立川輝信 六六

速見郡塚原霧島神社の甘酒祭

半田康夫 一二五

別府の社会構成

富来 隆 一二八

第一三・一四・一五・一六号合輯（大友宗麟特輯）

序文

上田 保

大友宗麟特輯号の発刊に当つて

論説・訳文

大友宗麟の社寺破却政策に就て

一五八五年レツデオ版 天正遣欧使節記(解題・訳文)

大友宗麟伝雑考

大友宗麟と臼杵・津久見・佐伯

大友時代末期の豊後臼杵

大友氏没落について

大友宗麟と茶道

資料

大友宗麟の狩獵に関する文献

年譜

大友宗麟年表

第一七・一八・一九・二〇号(日田・津江特輯)

論説

豊後国日田郡日田荘・津江山・大肥荘について―豊後園の研究(三)

山村における「あらけ」について―豊後国津江山の場合―

渡辺澄夫 一

清原貞雄 三

岡本良知 一一

久多羅木儀一郎 三二

増村隆也 五四

渡辺澄夫 六五

小田正衛 一〇六

立川輝信 一一五

立川輝信 一七三

中野操 一八五

橋本操 六能

渡辺澄夫 一

中野幡能 三九

津江・長谷部氏に就ての一考察……………立川輝信 五〇

豊後田染庄における建武内乱前後―田染神主宇佐氏の田染氏への転化をめぐる―……………野田秋生 六二

朽綱親満之乱……………田北学 七二

巡見使の岡藩査察につきて……………北村清士 一〇五

宝暦十一年府内藩里郷上村組百姓騒擾始末……………立川輝信 一一六

近世における玖珠郡小田村の構造……………佐藤 節 一二七

大分県における市地名……………染矢 多喜男 一三五

史話・史料……………後藤 武夫 一四七

明礬温泉の史話と史料……………土屋 北彦 一五五

吉三郎の墓と伝説……………安部 巖 一五九

調査……………

浄蓮寺を尋ねて―大野郡の古刹―……………

第二一・二二号 (民俗学特輯)……………

大分県における市の調査 (一)……………染矢 多喜男 一

国東半島昔話……………宮崎 一枝 二〇

九州地方の「ひかり」について―語源とその歴史的意義―……………渡辺 澄夫 二八

姫島のヨワ (産屋) について……………山下 富士松 四三

日田郡津江の代参講……………半田 康夫 四九

豊後国東郷と諸富名について―二豊荘園の研究(四)

渡辺澄夫 五二

第二三号

論説

豊後国大分郡勝津留・津守荘・勾別符・植田荘―二豊荘園の研究(六)

渡辺澄夫 一

豊後一宮 柞原八幡宮に関する二、三の考察

外山幹夫 四一

大分県における市地名(補遺)

染矢多喜雄 五五

資料

虚無僧の留場について

黒田城北 六八

豊後風土記中の大分郡の酒水について

二宮好雄 七五

社会科学教育

地歴的なものの編集学習について―教育実践記録―

安部巖 七一

第二四号

論説

豊後大友氏の出自について

渡辺澄夫

津久見の切支丹資料

増村隆也 一八

島原の乱と二豊の諸藩―特に津留時代の大給松平忠昭を主として―

立川輝信 二八

豊前中津藩における町人生活の一考察(一) 享保年間の変遷を中心として

橋本操六 七二

資料

申渡

半田康夫

八八

三重の市考……………土生よねさく 一〇一

資料

鶴崎地方の潜伏キリシタン……………久多羅木儀一郎 一一六

府内藩御用紙すきについて……………二宮好雄 一三三

「稲苗新語」の著者丸山祐義……………土井寛申 一三五

論説

第二五号

豊後大友氏の下向土着と嫡子単独相統制の問題……………渡辺澄夫 一

古代転換期の神道と仏教―八幡宮及び弥勒寺建立に至るまでの宗教的背景―……………中野幡能 三一

豊前中津藩における町人生活の一考察―享保年間の変遷を中心として―(二)……………橋本操 五〇

城米(＝田米)についての一考察―大分県特に府内藩を主として―……………立川輝信 九六

別府の歴史堤防を訪ねて(一)……………安部巖 一三九

資料

橋本徳太郎氏「豊後大友氏の出自について」……………立川輝信 一五二

消えた地名……………立川輝信 一五八

津久見市切支丹資料第二報……………増村隆也 一五八

森脇陸徳 一五八

第二六号

論説

先史社会における水田経営とマコモとー丹生川遺跡についてー 富来 隆 一

土師甕使用の火葬墓についてー豊後国直入郡直入町新田におけるー 佐藤 満 洋 八

安永七年の殺人事件とその処罰ー御定書より見たる府内藩日記所載竹町の殺人事件に就てー 立川 輝 信 一五

保戸島の「イノコ」行事について 野崎 一 郎 五三

カゴムシ 中間 照 雄 五七

資料

別府の歴史 堤防を訪ねて (二) 安部 隆 巖 五九

臼杵の切支丹遺跡 増村 隆 徳 七二

第二七号

研究

版経 大般若経の書誌学的研究ー大分市円寿寺所蔵大友吉統奉納大般若経に就てー 立川 輝 信 一

大友宗麟は切支丹か 増村 隆 也 八三

地名「真所」について 染 矢 多 喜 男 九七

大分地方の「先縄文」についてー大分市庄ノ原・鶴崎市明野遺跡ー 大塚 昭 憲 九九

報告

直入地方の八朔について

佐藤 満洋 一〇九

五馬村の風俗習慣年中行事

松岡 実 一一四

資料

西南の役史料 大分県騒擾一件

黒田 勇 一二一

歴史ものがたり

創作 萬九郎從軍

安部 一郎 一三六

第二八号

研究

佐田氏研究(その一)

大隈 米陽 一

賀来川の流路の移行と賀来荘および平丸名について

二宮 好雄 一一

安岐城の戦について疑問の教々

水口 忠孝 一七

信仰と地名

染矢 多喜男 二二三

佐伯の文学

増村 隆也 三一

眞宗僧伽の本質と歴史(一)

長峯 崇仁 五八

報告

大黒さまの「かるいひも」

佐藤 満洋 七六

別府の歴史 堤防を訪ねて(三)

安部 巖 七八

論説

大野川(1)―その歴史社会学考察―

富来 隆 一

大友時代の府内病院(講演)

荒卷 逸夫 三一

佐伯神楽(一名堅田神楽)について(其の二)

疋田 泉 四二

真宗僧伽の本質と歴史(二)

長峰 崇仁 五七

大野川通船について

土生 よねさく 七三

研究ノート

伝承から見た耶馬台国

有木 馨 八八

賀来神社の大名行列について

二宮 好雄 一〇〇

豊後国朽網郷の切支丹新資料(一)―大分県直入郡久住町石田の切支丹遺跡―

佐藤 満洋 一〇六

資料

浄竜寺由緒書

立川 輝信 一一四

会員名簿

一一八

第三一号

論説

大友氏の分国法

外山 幹夫 一

中世末における城下集落の発生

染矢 多喜男 三一

佐伯神楽について(其の三)

疋田 泉 三八

大野川(2)―その歴史社会学の考察―

富来 隆 四九

教育

社会科学教育のために

富来隆

六二

報告

十文字・塚原・日出生台・由布院見学

富来隆

七二

会員名簿 (一一)

富来隆

七四

第三二・三三三号

論説

「虚空津姫」と「狗古智卑狗」とー魏志倭人伝の理解にー

富来隆

一

大野郡三重郷の地頭新田陸奥守についてー「豊後国函田帳考証」の考証ー

渡辺澄夫

一〇

「君が代」考

土屋北彦

一四

岡藩の唐津城番について

北村清士

四九

佐伯神楽 (一名堅田神楽) (その四)

疋田泉

五七

佐田氏研究 (その二)

大隈米陽

一〇一

資料

秋田城介実季の掟と「掟」に就て

立川輝信

一一四

明治四年 豊後国大分郡口戸村指出帳

立川輝信

一三六

歴史教育

郷土史学習指導の一端

木許正生

一四三

木ノ上・高来山たうらいの横穴古墳

「丹生」旧石器と旧象の齒と

杉崎重臣 一四七
富来隆 一五二

第三四号 (特集、大分県における最近の考古学調査から)

最近の考古学調査から

聖嶽洞穴遺跡

賀川光夫 一

速見郡山香町大字広瀬川原田洞穴の調査

後藤重己 三

稲荷岩陰遺跡発掘調査報告 (大分県大野郡朝地町大恩寺稲荷)

岩尾松美 一三

所謂鐘崎式土器の層位出土の新例 (小池原式の設定) | 縄文後期小池原遺跡 |

羽田義明 三〇

大野郡朝地町草木岩陰遺跡 | 縄文時代後期土塚墓の新例 |

坂田邦洋 四二

大分県大野郡緒方町大石遺跡の調査 | 縄文晩期初頭磨製石器の新例 |

賀川重治 五一

第三五号

論説

中世における六郷満山 | 六郷満山の研究七・八 |

富阿賀鳥鈴 五八

大分県の民俗芸能 (一)

賀川光夫 五八

真宗僧伽の本質と歴史 ⑤

中野幡能 一
染矢多喜男 五七
長峯崇仁 七三

論説

宇佐宮の職人とその活動

外山 幹夫

一

六郷山領の崩壊過程―六郷満山の研究一〇―

中野 幡能

三六

大分県の民俗芸能 (二)

染矢 多喜男

六五

研究ノート

佐伯雜記 (一)

増村 隆也

八九

追悼

清原貞雄博士の生涯と業績

渡辺 澄夫

一〇四

清原貞雄博士をしのぶ

中野 幡能

一〇九

故清原貞雄先生の思い出

立川 輝信

一一二

第三八・三九・四〇号 (豊後国大野荘特輯号)

刊行に当って

竹内 理三

研究

大友氏入国以前の大野荘と大神氏

中野 幡能

一

大野荘と三聖寺

飯田 久雄

二五

豊後国大野荘における在地領主制の展開―地頭志賀氏を中心として―

渡辺 澄夫

五五

史料

第四一号

論説

九州の製蠶業における労働力

野口喜久雄 一

豊後国国崎郡安岐郷における古墳と鉄の文化

水口忠孝 二九

大分県の民俗芸能 (三)

染矢多喜男 四七

中津藩における近世城下町の共同体的自治組織 (その一) —大井手堰夫役をめぐる町の立場

勝目忍 七九

研究ノート

佐伯雜記 (二)

増村隆也 九四

漁村の正月行事 —大分県臼杵市大字諏訪宇津留—

加藤泰信 一〇〇

第四二号

論説

「早水台遺跡とその文化」覚書

佐藤 暁 一

大分県の民俗芸能 (四)

染矢多喜男 二八

岡藩における心学 —広徳舎の由来について—

北村清士 四八

研究ノート

正月行事 (宇佐郡駅川町拝田・山本地区)

小玉洋美 五四

佐伯雜記(三).....	增村隆也	七四
秋風庵月化と五馬紀行について.....	高倉芳男	八一

第四三・四四号

論説

江戸時代の玖珠郡「森藩と天領」について―森藩の成立と藩の組織―.....	宿利天祐	一
河上彦斎 一名高田源兵衛と鶴崎.....	立川輝信	一四
大分県の民俗芸能(五).....	染矢多喜男	三一
西南役の三重市の戦闘―薩軍来たる―.....	土生よねさく	四二

研究ノート

今泉元甫の遺跡―遺宅の松と三つの井戸の物語―.....	羽柴弘	六三
佐伯雜記(四).....	増村隆也	六七

資料

豊府領略記.....	立川輝信	七五
大分県近世庶民史料目録(一)―直入郡武藤家文書・戸伏氏所蔵文書―.....	渡辺澄夫	一〇四
	北村清洋	

第四五号

論説

国東御領諸富名主の系譜―別府市後藤氏蔵「紀系図」について

渡辺澄夫 一

大分県の民俗芸能 (六)

染矢多喜男 八

文書から見た天領日田の庄屋について

高倉芳男 二九

研究ノート

佐伯雜記 (五)

増村隆也 四六

国東地方の紀姓について

永松照政 五六

資料

大分県近世庶民史料目録 (二)

―玖珠郡緒方文彦氏文書・麻生富久男氏文書・日田郡矢幡健氏文書―
野口喜久雄 六一

第四六号

論説

豊後風土記の「打猿・八田・国摩侶」

富来隆 一

豊後国直入郡地方の「かいち」の考察―井手野村・城後村の場合―

佐藤満洋 七

堤防を訪ねて (四)

大分県の民俗芸能 (七)

安部巖 三五

研究ノート

九重山麓の婚姻習俗

染矢多喜男 五一

九重山の山伏

藤原正教 七〇
松岡実 七三

佐伯雜記(六).....増村隆也 九五

第四七号(勤王志士青木猛比古特集)

青木猛比古特集号刊行に当つて.....渡辺澄夫 一

論説

青木猛比古.....故佐藤 歳太郎 二

幕末の志士青木猛比古.....故野々下道太郎 五

父の物語られた青木猛比古.....疋田 泉 九

勤王家青木猛比古先生.....故下川 勝三郎 一三

青木猛比古先生建碑顯末.....山田 平之丞 三二

青木猛比古先生を偲ぶ.....故高司 正直 三四

奈多氏の研究.....水口 忠孝 三七

研究ノート

佐伯雜記(七).....増村隆也 五四

資料

大分県近世庶民史料目録(三)

一 別府市・速見郡.....安部 巖 六三

第四八号(志士本好千座特集)

論説

志士本好千座

中野 幡能 一

鯨と別府湾

安部 巖 三八

史料

御嶽権現の古文書―鳥居鎮座火男火禿神社史料―

松岡 実 四三

旧藩事蹟調―大分県内旧熊本県領分

立川 輝信 六三

大分県近世庶民史料目録(四)―竹田市・大野郡―

北村 清士 八九

研究ノ一ト

深江湾近辺史話

後藤 武夫 一五七

第四九号

論説

稲葉氏の臼杵城

高橋 長一 一

辺地における近世農村の成立(一)―豊後国直入郡城後村の場合―

佐藤 満洋 五

大分県の民俗芸能(八)

染矢 多喜男 二六

研究ノ一ト

甲斐鶴寸の遺文―「常磐井堤の記」を遺した歌人―

羽柴 弘 五三

史蹟探訪記

豊日の古戦跡を訪ねて

田北 暢舟 六八

史料

日向野を訪ねて 久保トミ子

七五

大分県近世庶民史料目録 (五)

1 直入郡城後村 田北フサ子氏文書目録

渡野佐野 藤口辺 澁久喜 夫 洋雄

七九